

第5期茅ヶ崎市障害者保健福祉計画策定
アンケート調査結果報告書
【概要版】

平成29年11月

茅ヶ崎市

目 次

I. 調査の概要	1
II. アンケート調査結果のまとめ	3
1. ご本人のことについて	3
2. 障害の状況について	5
3. 健康や医療について	7
4. 日常生活の状況について	8
5. 日ごろの活動について	10
6. 外出や地域活動への参加について	12
7. 情報・相談などについて	14
8. 障害者差別解消法について	15
9. 就学・就労について（障害児および発達・高次脳機能障害のみの設問）	18
10. 将来の暮らしについて	20
11. 福祉サービスの利用意向について	21
12. 防災について	22
13. 障害児の教育のあり方について	24
14. 現在の暮らしについて	25
15. 市の福祉施策のあり方について	26
16. [ご家族の方にお伺いします]情報・相談などについて	27
III. 発達障害の有無別のクロス集計結果	29

I. 調査の概要

○調査目的

障害のある方を対象に、障害の状況や日常生活での困りごと、施策に対する意見や要望等を伺い、平成 30 年度から開始する第 5 期茅ヶ崎市障害者保健福祉計画を策定するための基礎資料とすることを目的として本調査を実施しました。

○調査方法

実施時期	平成 29 年 2 月 20 日～3 月 10 日
配布・回収方法	・身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児については、各対象の方に、郵送による発送・回収を実施。 ・発達障害者・高次脳機能障害者および難病の方については、関係団体や相談支援事業所、地域活動支援センター、茅ヶ崎保健福祉事務所に配布を依頼し、各対象の方から郵送による回収を実施。

○調査票の配布数および回収数

配布数：1,300件、回収数：574件（44.2%）

調査票区分	対象者 (基準日：平成 29 年 1 月 1 日時点)	配布数	回収数
身体障害	市内在住で身体障害者手帳を所持する 18 歳以上の方から無作為抽出	500 件	268 件 (53.6%)
知的障害	市内在住で療育手帳を所持する 18 歳以上の方から無作為抽出	200 件	97 件 (48.5%)
精神障害	市内在住で精神障害者保健福祉手帳を所持する 18 歳以上の方から無作為抽出	200 件	95 件 (47.5%)
障害児	市内在住で身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のうち、1 つ以上所持する 18 歳未満の方、または、福祉サービスの支給決定を受けており、障害者手帳を所持していない 18 歳未満の方から無作為抽出	200 件	87 件 (43.5%)
発達障害・ 高次脳機能障害	市内在住、在勤・在学等で発達障害あるいは高次脳機能障害の診断を受けており、障害者手帳を所持していない方	100 件	18 件 (18.0%)
難病	市内在住、在勤・在学等で難病(332 疾患)の診断を受けており、障害者手帳を所持していない方	100 件	9 件 (9.0%)

(注) 障害児および難病の調査票のうち、白紙（全部無回答）で返却された調査票がそれぞれ 1 件ずつみられました。なお、これらの調査票は集計対象から除外しています。

○概要版を見る際の留意事項

- 表の（n=数値）は、その設問に該当する回答者総数です。
- 表の中の数値は、回答者総数における回答者割合（%）を示しています。回答者割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

Ⅱ. アンケート調査結果のまとめ

1. ご本人のことについて

○アンケートの記入者（単一回答）

- ・アンケートの記入者についてみると、全体では、40.0%が「ご本人が記入」、17.5%が「ご本人の意見や介護者などが記入」、19.2%が「ご本人の意見を確認することが難しいので、ご家族や介護者、事業所の職員などが記入」と回答しています。
- ・障害種別にみると、身体障害では51.1%、精神障害では62.1%が「ご本人が記入」と回答しています。一方、知的障害では「ご本人が記入」が20.6%であるのに対し、28.9%が「ご本人の意見を確認することが難しいので、ご家族や介護者、事業所の職員などが記入」と回答しています。

○性別（単一回答）

- ・性別についてみると、全体では、「男性」が52.8%、「女性」が43.7%と、「男性」が「女性」よりも多くなっています。
- ・障害種別にみると、身体障害では「男性」と「女性」の回答割合がほぼ同じだった一方、知的障害や精神障害、障害児などでは「男性」が「女性」よりも多くなっています。

○年齢（数値記入）

- ・年齢（平成29年3月1日現在）について、障害種別にみると、身体障害では「60代」が26.1%、「70代」が34.3%、「80代以上」が22.8%と、60代以上が全体の8割を上回っています。なお、身体障害のうち、「65歳以上」が73.5%、「75歳以上」が41.0%となっています。
- ・一方、知的障害については「20代」と「40代」が26.8%と最も多くなっています。精神障害については「40代」が29.5%と最も多くなっています。
- ・障害児については、「6歳～11歳」が45.3%と最も多く、「15～17歳」が19.8%と続いています。

○居住地区（単一回答）

- ・居住地区についてみると、全体では「湘北地区」が15.0%と最も多く、以下、「茅ヶ崎地区」（14.0%）、「松林地区」（11.9%）と続いています。

○現在、生活している場所（単一回答）

- ・現在、生活している場所についてみると、全体では、「自宅」が91.4%となっています。
- ・障害種別にみると、知的障害では「グループホームに入居」（10.3%）、精神障害では「病院に入院」（8.4%）が他の障害種別よりも回答割合が高くなっています。

○一緒に暮らしている人（複数回答）

- ・「現在、生活している場所」で「自宅」と回答した方に対して、一緒に暮らしている人についてたずねたところ、全体では、「親」が45.1%と最も多く、以下、「配偶者」（34.6%）、「兄弟・姉妹」（24.3%）、「子ども」（18.2%）と続いています。一方、「一人暮らし」との回答も1割を超えています。
- ・障害種別にみると、知的障害や障害児、発達・高次脳機能障害では「親」が8割以上となっています。一方、身体障害では「配偶者」（60.8%）が最も多くなっています。
- ・なお、各障害種別の「一人暮らし」の回答割合をみると、身体障害（14.4%）や精神障害（18.8%）で回答割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

図表 1 一緒に暮らしている人（複数回答）

	一人暮らし	配偶者	親	子ども	兄弟・姉妹
身体障害 (n=250)	14.4%	60.8%	11.2%	32.4%	4.4%
知的障害 (n=85)	4.7%	4.7%	80.0%	3.5%	31.8%
精神障害 (n=80)	18.8%	22.5%	50.0%	11.3%	22.5%
障害児 (n=84)	0.0%	0.0%	98.8%	0.0%	75.0%
発達・高次脳 (n=16)	0.0%	12.5%	87.5%	6.3%	43.8%
難病 (n=8)	0.0%	62.5%	37.5%	12.5%	12.5%
全体 (n=523)	10.5%	34.6%	45.1%	18.2%	24.3%

	祖父・祖母	施設などの職員や仲間	その他	無回答
身体障害 (n=250)	0.0%	0.4%	2.8%	2.4%
知的障害 (n=85)	4.7%	0.0%	1.2%	2.4%
精神障害 (n=80)	2.5%	0.0%	2.5%	2.5%
障害児 (n=84)	14.3%	0.0%	2.4%	1.2%
発達・高次脳 (n=16)	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
難病 (n=8)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体 (n=523)	3.6%	0.2%	2.3%	2.1%

(注) 回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（その他、無回答は除いています）。

- ・年齢別についてみると、65歳以上で一人暮らしの方（独居高齢者）は、65歳以上では16.1%、全体では6.1%となっています。また、65歳以上で一緒に暮らしている方が「配偶者」のみの方は65歳以上では40.7%、全体では15.5%となっています。

○月収額（単一回答）

- ・月収額についてみると、全体では、「5万円以上10万円未満」が27.9%と最も多く、以下、「10万円以上15万円未満」（16.6%）、「15万円以上20万円未満」（15.8%）と続いています。
- ・障害種別にみると、知的障害や精神障害では「5万円以上10万円未満」が最も多い一方で、身体障害では「15万円以上20万円未満」「5万円以上10万円未満」がそれぞれ2割強となっています。
- ・なお、精神障害では、月収額「なし」が10.5%と1割を超えており、身体障害や知的障害に比べて、回答割合が高くなっています。

○月収額の収入源（複数回答）

- ・月収額で「1万円未満」～「25万円以上」のいずれかを回答した方に対して、その収入源についてたずねたところ、「年金（障害年金その他）」が81.4%と最も多く、次いで、「自分の給料」（22.5%）となっています。
- ・障害種別にみると、難病以外の全ての障害で「年金（障害年金その他）」が最も多くなっています。一方、「自分の給料」については、知的障害で33.8%、精神障害で24.1%と、身体障害に比べると回答割合が高くなっています。

2. 障害の状況について

○身体障害者手帳の等級（単一回答）

- ・身体障害の方について、身体障害者手帳の等級をみると、「1級」が33.2%、「2級」が19.0%と、全体の半数以上が重度障害となっています。

○身体障害の種類（複数回答）

- ・身体障害の方について、身体障害の種類をついてみると、「肢体不自由」が49.6%と最も多く、以下、「内部障害」（22.0%）、「聴覚障害」（10.8%）の順となっています。

○療育手帳の等級（単一回答）

- ・知的障害の方について、療育手帳の等級をみると、「B2」が28.9%と最も多く、以下、「A1」が「A2」がそれぞれ21.6%と続いています。
- ・その他の障害種別についてみると、障害児では7割以上が療育手帳を所持しています。

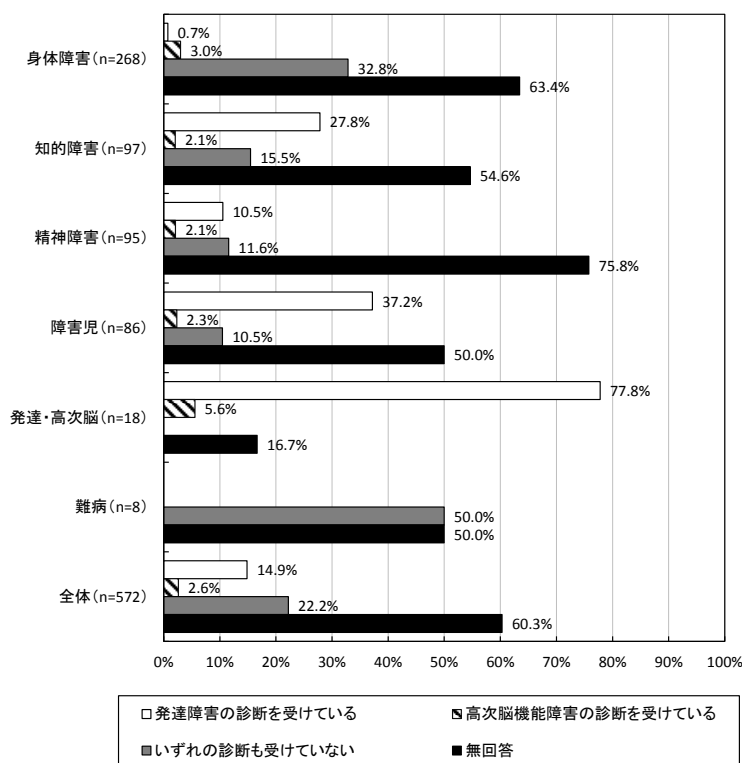
○精神障害者保健福祉手帳の等級（単一回答）

- ・精神障害の方について、精神障害者保健福祉手帳の等級をみると、「2級」が65.3%と最も多く、以下、「3級」（20.0%）、「1級」（11.6%）の順となっています。

○発達障害・高次脳機能障害の診断の有無（複数回答）

- ・発達・高次脳機能の方について、発達障害・高次脳機能障害の診断の有無をみると、77.8%が「発達障害の診断を受けている」、5.6%が「高次脳機能障害の診断を受けている」と回答しています。
- ・その他の障害種別についてみると、知的障害の3割弱、障害児の4割弱が「発達障害」の診断を受けていると回答しています。

図表 2 発達障害・高次脳機能障害の診断の有無（複数回答）



○難病の診断の有無（単一回答）

- ・ 難病の方について、62.5%が「診断を受けている」と回答しています（37.5%は「無回答」）。

○障害福祉サービスの障害支援区分（単一回答）

- ・ 障害福祉サービスの障害支援区分（区分1から区分6までの合計）についてみると、全体では、障害支援区分の認定を受けていると回答した方は12.8%となっています。

○介護保険の要介護認定状況（単一回答）

- ・ 65歳以上の方の介護保険の要介護認定状況についてみると、全体では、29.4%が何らかの要支援・要介護認定を受けている（要支援1から要介護5までの合計）と回答しています。

3. 健康や医療について

○健康の維持や医療に関することで困っていること（複数回答）

- ・健康の維持や医療に関することで困っていることをみると、「障害があることで、他の病気の治療が受けにくい」（11.5%）、「医療機関が近くにない」（9.6%）、「医療機関の設備や対応が障害者に配慮されていない」（9.4%）が多くなっています。
- ・障害種別にみると、知的障害では「病気や治療の説明がよく分からない」と「専門の医師がない」が多く、障害児では「障害があることで、他の病気の治療が受けにくい」が多くなっています。

図表 3 健康の維持や医療に関することで困っていること（複数回答）

		医療機関が近くにない	病気や治療の説明がよく分からない	かかりつけの医師がない	専門の医師がない	医療機関の設備や対応が障害者に配慮されていない
身体障害	(n=268)	8.2%	4.1%	2.2%	2.6%	6.3%
知的障害	(n=97)	6.2%	14.4%	1.0%	14.4%	6.2%
精神障害	(n=95)	13.7%	11.6%	2.1%	5.3%	10.5%
障害児	(n=86)	12.8%	2.3%	4.7%	16.3%	20.9%
発達・高次脳	(n=18)	16.7%	11.1%	11.1%	16.7%	11.1%
難病	(n=8)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
全体	(n=572)	9.6%	7.0%	2.6%	7.5%	9.4%

		障害があることで、他の病気の治療が受けにくい	健康や医療について相談できる人や場所を知らない	その他	特になし	無回答
身体障害	(n=268)	6.7%	5.6%	2.6%	57.1%	16.0%
知的障害	(n=97)	12.4%	10.3%	3.1%	40.2%	19.6%
精神障害	(n=95)	13.7%	9.5%	8.4%	43.2%	11.6%
障害児	(n=86)	23.3%	3.5%	4.7%	37.2%	4.7%
発達・高次脳	(n=18)	11.1%	5.6%	11.1%	33.3%	11.1%
難病	(n=8)	12.5%	0.0%	12.5%	62.5%	0.0%
全体	(n=572)	11.5%	6.6%	4.4%	48.3%	13.8%

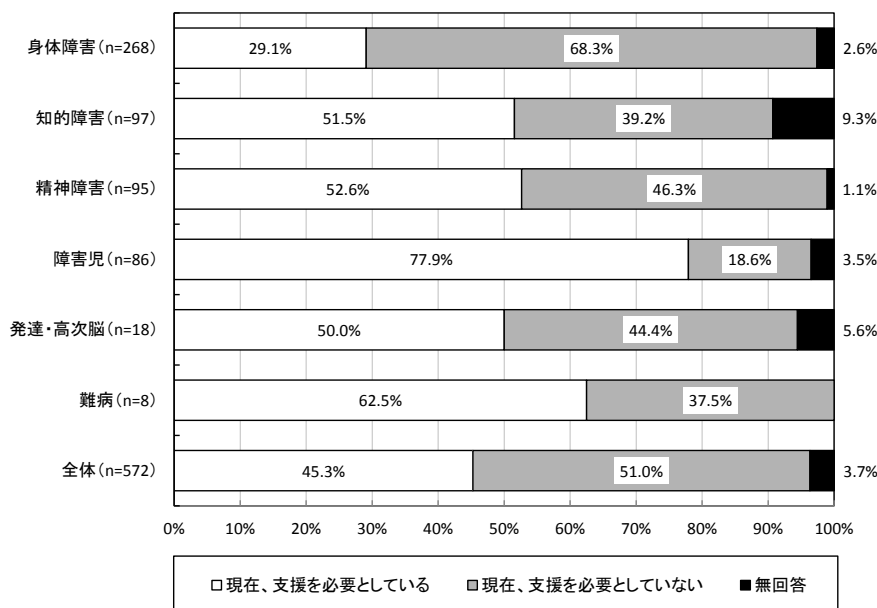
（注）回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（その他、特になし、無回答は除いています。）

4. 日常生活の状況について

○現在の日常生活での支援の必要性（単一回答）

- ・現在の日常生活での支援の必要性についてみると、全体では「現在、支援を必要としている」が45.3%となっています。
- ・障害種別にみると、知的障害や精神障害では5割強、障害児では8割弱が「現在、支援を必要としている」と回答しています。

図表 4 現在の日常生活での支援の必要性（単一回答）



○必要とする支援の項目（複数回答）

- ・現在の日常生活での支援の必要性で「現在、支援を必要としている」と回答した方に対して、必要とする支援の項目をたずねたところ、全体では、「外出など」が58.3%と最も多くなっています。以下、「日用品の買い物」（49.0%）、「入浴介助・食事介助・清潔など」（48.6%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「外出など」が最も多い一方で、精神障害では、「人とのコミュニケーション」と「お金の管理」が最も多くなっています。

○主に支援している方（単一回答）

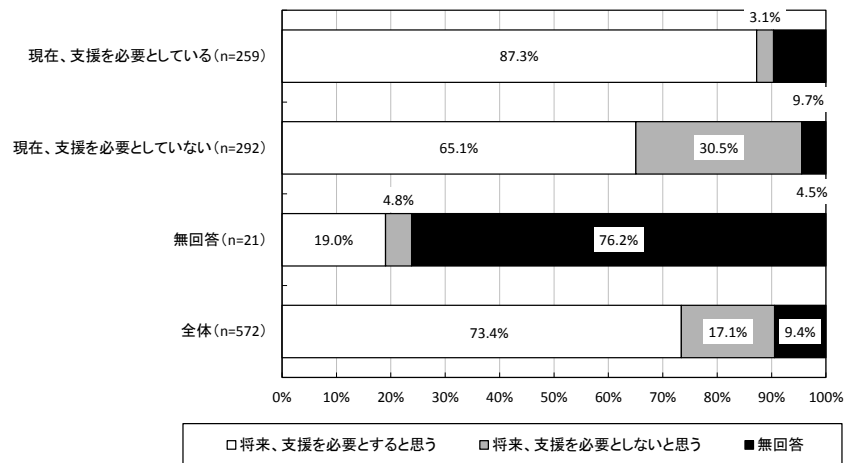
- ・現在の日常生活での支援の必要性で「現在、支援を必要としている」と回答した方に対して、主に支援している方をたずねたところ、「同居している家族」が62.5%と最も多くなっています。
- ・障害種別にみると、全ての障害で「同居している家族」が最も多く、特に、障害児では7割以上となっています。その他の回答をみると、身体障害では「福祉サービス事業所の職員（ホームヘルパーなど）」が12.8%、精神障害では「入所施設・病院の職員」との回答が12.0%となっています。

○将来の日常生活での支援の必要性（単一回答）

- ・将来の日常生活での支援の必要性についてみると、全体では、「将来、支援を必要とすると思う」が73.4%となっています。

- ・障害種別にみると、障害児では8割以上、身体障害や発達・高次脳機能障害、難病では7割以上、知的障害や精神障害では6割以上が「将来、支援を必要と思う」と回答しています。
- ・なお、現在、日常生活での支援の必要の有無で「現在、支援を必要としない」と回答した方のうち、65.1%が「将来、支援を必要と思う」と回答していることから、現在は日常生活の支援が必要なくても、将来は必要であると思う人が多くいると考えられます。

図表 5 (現在の日常生活での支援の必要の有無別)
将来の日常生活での支援の必要の有無 (単一回答)



○将来、必要とする支援の項目 (複数回答)

- ・将来、日常生活での支援の必要の有無で「将来、支援を必要と思う」と回答した方に対して、将来、必要とする支援の項目をたずねたところ、「外出など」が52.1%と最も多くなっています。以下、「日用品の買い物」(48.1%)、「困ったときにいつでも相談できること」(46.9%)の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害や、障害児では「外出など」が最も多い一方で、精神障害では、「困ったときにいつでも相談できること」が最も多くなっています。また、障害児では、「外出など」「人とのコミュニケーション」「お金の管理」「困ったときにいつでも相談できること」がそれぞれ最も多くなっています。
- ・なお、必要とする支援の項目について、現在と将来で比較すると、「困ったときにいつでも相談できること」や「グループホーム等で生活するための体験の場」は現在よりも将来の方が回答割合が高くなっています。

5. 日ごろの活動について

○昼間の時間の主な過ごし方（単一回答）

- ・ 昼間の時間の主な過ごし方についてみると、「家で過ごしている」が47.5%と最も多くなっています。なお、「企業等に正社員として働いている」は8.8%、「アルバイト・パートで働いている」が7.6%、「福祉サービス等を利用して働いている」が8.8%、「自宅で仕事している」が3.5%と、3割弱の方は昼間の主な過ごし方として「働いている」¹と回答しています。
- ・ 障害種別にみると、知的障害では6割以上が「働いている」と回答しており、内訳をみると、「福祉サービス等を利用して働いている」（35.1%）が最も多くなっています。

図表 6 昼間の時間の主な過ごし方（単一回答）

	企業等に 正社員として 働いている	アルバイト・ パートで 働いている	福祉サービ ス等を利用し て働いている	自宅で 仕事している	学校に 通っている
身体障害 (n=268)	9.0%	4.5%	0.7%	4.5%	0.4%
知的障害 (n=97)	12.4%	13.4%	35.1%	1.0%	0.0%
精神障害 (n=95)	4.2%	12.6%	6.3%	3.2%	1.1%
発達・高次脳 (n=18)	0.0%	0.0%	5.6%	5.6%	55.6%
難病 (n=8)	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体 (n=486)	8.8%	7.6%	8.8%	3.5%	2.5%

	福祉施設に 通っている	家で 過ごしている	入所施設、 病院で過ご している	その他	無回答
身体障害 (n=268)	3.4%	62.7%	5.2%	2.6%	7.1%
知的障害 (n=97)	16.5%	14.4%	2.1%	2.1%	3.1%
精神障害 (n=95)	5.3%	45.3%	11.6%	2.1%	8.4%
発達・高次脳 (n=18)	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
難病 (n=8)	12.5%	37.5%	0.0%	0.0%	12.5%
全体 (n=486)	7.0%	47.5%	5.6%	2.3%	6.4%

	全体
身体障害 (n=268)	100.0%
知的障害 (n=97)	100.0%
精神障害 (n=95)	100.0%
発達・高次脳 (n=18)	100.0%
難病 (n=8)	100.0%
全体 (n=486)	100.0%

（注1）障害児向け調査票は上記の設問を設けていません。

（注2）回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（その他、無回答は除いています）。

¹ 「働いている」とは、「企業等に正社員として働いている」「アルバイト・パートで働いている」「福祉サービス等を利用して働いている」「自宅で仕事している」のいずれかを回答した方を指しています（以下同様）。

- ・なお、30代および40代の昼間の時間の主な過ごし方についてみると、「家で過ごしている」が、30代で35.1%、40代で25.8%となっています。

○就労する上で必要な支援の項目（複数回答）

- ・昼間の時間の主な過ごし方で「働いている」と回答した方に対して、就労する上で必要な支援の項目をたずねたところ、全体では、「能力に応じた適切な評価と支援計画」が40.7%と最も多くなっています。以下、「障害特性に配慮した仕事の分担」（38.6%）、「職場適応援助者（ジョブコーチ）の配置」（30.7%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害や精神障害では「能力に応じた適切な評価と支援計画」が最も多い一方で、知的障害では「職場適応援助者（ジョブコーチ）の配置」が最も多くなっています。

○最も希望している過ごし方（単一回答）

- ・最も希望している過ごし方についてみると、全体では、「家で過ごしている」が28.4%と最も多く、次いで、「企業等に正社員として働いている」（13.2%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害や精神障害では「家で過ごしている」が最も多い一方で、知的障害では「福祉サービス等を利用して働いている」が最も多くなっています。
- ・昼間の時間の主な過ごし方で「家で過ごしている」と回答した方について、最も希望している過ごし方をみると、51.9%が「家で過ごしている」と回答している一方で、16.5%は働くことを希望しています。

6. 外出や地域活動への参加について

○普段の外出頻度（単一回答）

- ・ 普段の外出頻度についてみると、全体では、「ほぼ毎日」が45.1%となっています。一方、「年に数回」が1.9%、「ほとんど外出しない」が9.1%と1割以上は外出をほとんどしていません。
- ・ 障害種別にみると、障害児を除く障害では「ほとんど外出しない」が約1割となっています。
- ・ 年代別にみると、「40代」から「80代」で「ほとんど外出しない」との回答が約1割となっています。

○地域での活動の参加状況（単一回答）

- ・ 地域での活動の参加状況についてみると、全体では、「よく参加する」が3.8%、「ときどき参加する」が20.3%、「ほとんど参加しない」が72.7%となっています。
- ・ 障害種別にみると、障害児以外では「ほとんど参加しない」が7割以上となっています。

○参加したい地域活動の内容（複数回答）

- ・ 地域での活動の参加状況で「よく参加する」あるいは「ときどき参加する」と回答した方に対して、参加したい地域活動の内容をたずねたところ、全体では、「地域の行事やお祭り」が55.1%と最も多くなっています。以下、「趣味やサークルなどの活動」（35.5%）、「スポーツ・レクリエーション活動」（34.1%）の順となっています。
- ・ 障害種別にみると、身体障害では「趣味やサークルなどの活動」が最も多く、障害児では「地域の行事やお祭り」が最も多くなっています。

図表 7 参加したい地域活動の内容（複数回答）

	講座や講演会	音楽・絵画・ 工芸などの芸術活動	スポーツ・ レクリエーション活動	障害者団体の活動	地域の行事やお祭り
身体障害 (n=64)	32.8%	21.9%	34.4%	17.2%	43.8%
知的障害 (n=21)	0.0%	23.8%	28.6%	57.1%	42.9%
精神障害 (n=12)	25.0%	33.3%	33.3%	25.0%	33.3%
障害児 (n=35)	5.7%	28.6%	40.0%	31.4%	85.7%
発達・高次脳 (n=5)	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
難病 (n=1)	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体 (n=138)	19.6%	25.4%	34.1%	26.8%	55.1%

	ボランティア など社会貢献活動	趣味や サークルなどの活動	その他	無回答
身体障害 (n=64)	17.2%	45.3%	1.6%	4.7%
知的障害 (n=21)	23.8%	19.0%	4.8%	0.0%
精神障害 (n=12)	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%
障害児 (n=35)	8.6%	20.0%	5.7%	2.9%
発達・高次脳 (n=5)	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%
難病 (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体 (n=138)	15.2%	35.5%	2.9%	2.9%

（注）回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（その他、無回答は除いています）。

○地域活動に参加しない理由（複数回答）

- ・地域での活動の参加状況で「ほとんど参加しない」と回答した方に対して、地域活動に参加しない理由をたずねたところ、全体では、「興味のある活動がない」が35.1%と最も多く、以下、「参加するための体力がない、体調管理が難しい」（28.8%）、「一緒に参加する仲間がいない」（28.1%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害では「参加するための体力がない、体調管理が難しい」が最も多く、知的障害や精神障害などでは「興味のある活動がない」が最も多くなっています。

○バリアフリー化を進めてほしいと考える施設や設備等（複数回答）

- ・バリアフリー化を進めてほしい施設や設備等についてみると、全体では、「建築物（公共施設、商業施設、医療施設等）」が32.9%と最も多く、以下、「鉄道駅」（28.7%）、「道路」（26.6%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害では「建築物（公共施設、商業施設、医療施設等）」との回答が最も多くなっている一方で、知的障害や障害児では「障害特性に配慮した施設の運営」が最も多くなっています。また、精神障害では「鉄道駅」が最も多くなっています。

7. 情報・相談などについて

○福祉サービス等の情報の入手先（複数回答）

- ・福祉サービス等の情報の入手先についてみると、全体では、「市の広報紙・資料」が45.1%と最も多くなっています。以下、「家族・親戚・友人・知人など」（30.1%）、「障害者施設や団体」（18.0%）の順となっています。一方、「入手する手段がない」が8.7%となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害や精神障害では「市の広報紙・資料」が最も多い一方で、知的障害では「障害者施設や団体」、障害児では「家族・親戚・友人・知人など」が最も多くなっています。
- ・なお、知的障害や精神障害、難病では「入手する手段がない」が1割以上となっており、他の障害種別よりも回答割合が高くなっています。

○悩みごとや心配ごとにおける家族や親戚以外の相談相手（複数回答）

- ・悩みごとや心配ごとにおける家族や親戚以外の相談相手についてみると、全体では、「友人・知人」が30.1%と最も多く、以下、「病院（医師、看護師、ケースワーカーなど）」（27.1%）、「市役所の担当窓口」（13.6%）の順となっています。その一方で、15.6%が「誰もいない」と回答しています。
- ・障害種別にみると、身体障害では「友人・知人」の回答が最も多く、知的障害では「福祉サービス事業所等の職員」、精神障害では「病院（医師、看護師、ケースワーカーなど）」、障害児では「保育所（園）・幼稚園・学校の先生」が最も多くなっています。
- ・なお、知的障害や難病では2割以上が「誰もいない」と回答しており、他の障害種別よりも高くなっています。

○相談機能を充実させるために最も必要なこと（単一回答）

- ・相談機能を充実させるために最も必要なことについてみると、「どこで相談したら良いか、すぐ分かること」が24.8%と最も多くなっています。以下、「いつでも相談できること」（10.0%）、「身近なところで相談できること」（9.4%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害や精神障害、障害児では「どこで相談したら良いか、すぐ分かること」が最も多い一方で、知的障害では「いつでも相談できること」が最も多くなっています。

8. 障害者差別解消法について

○障害を理由とする差別について（自由回答）

- ・障害を理由とする差別については、178人の方から206件の意見を頂きました。以下、主な回答内容を掲載します。

図表 8 障害を理由とする差別について（自由回答）

分類（意見数）	主な回答内容	
生活の場面ごと	情報（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ テレビの文字放送が特に民放の場合は少ないように思える。これを増やしてもらいたい。
	行政機関（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害が一般的に理解されていないと思う。
	教育（20件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 幼い頃、障害があるという理由で幼稚園の入園を遠回しに断られた。 ■ 幼児期に障害を理由に入園に苦労した。
	雇用・就業（41件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 就労は何度も面接や実習を真面目にやっても、障害で身体が動かないことで断られることが多かった。「何かあったら…」と、いつも言われた。 ■ 就労する時、健康に問題ないと言っても、障害者という目線で判断されることを感じる。 ■ 障害者ができる職業が少ない。 ■ 障害者というだけで、アルバイトやパートを断られることがある。 ■ 障害の理解が得られず、障害のない者と同じ場での学習、同じ場での仕事等が困難になることがある。
	公共交通（14件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外見上障害が分からないため、バスの運転手に身障者手帳を示した時に冷たい目で見られることが多い。 ■ タクシーで乗車拒否される。
	公共施設・道路（8件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害者用トイレや駐車場に障害のない人が入っており、急ぎの折に使用できないことが多々ある。
	サービス（買物・飲食店など）（5件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 会話をする時に筆談を求めると嫌な顔をされる。 ■ 以前、資格試験を受ける際、問い合わせしたところ、障害者に対する配慮が全くなく受験を諦めた。
	医療（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 精神科以外の病院で服薬している薬を書くと、その病院の職員から不快な言葉を掛けられることがあった。
周りからの差別的な視線・言動（67件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 知的障害のため、周りからいつもじろじろ見られ、笑われることがある。思いやりがない人が多い。 ■ 言語に障害があることを理由にした差別がある。 ■ 他の子供と同じ事が同じ時間内でできない時、周囲から理解が得られなかった。 	
障害に対する無理解（22件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 両下肢人工関節の障害のため、外見では障害があることが分からない。 ■ 息子が発達障害であり、本人は日々努力しているが、周りから理解を得られない。 	
その他（15件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全てが自分の意思の届かないところで決められる。 ■ 誰にも言っていないので、差別がわからない。 	

（※）なお、8件は「差別を受けたことがない」とのご意見でした。

○差別を解消するための合理的配慮（自由回答）

- ・差別を解消するための合理的配慮については、130人の方から147件の意見を頂きました。以下、主な回答内容を掲載します。

図表 9 差別を解消するための合理的配慮（自由回答）

分類（意見数）		主な回答内容
生活の場面ごと	情報（1件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害者が利用できる福祉サービスや支援をしてくれる様々な機関があることがわからない。もっとわかるようにしてほしい。
	行政機関（5件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公的機関に相談できる機会を確保してほしい。
	教育（21件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ いじめにあっても相談できる先生がいること。 ■ 障害のあるなしに関わらず、小さい頃から一緒に学び、偏見をなくすこと。 ■ 支援級がある学校を増やしてほしい。
	雇用・就業（12件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害があっても仕事ができるような環境作りが必要である。 ■ 障害があっても一般企業は多様な職種に就労の機会を与えるべきである。
	公共交通（3件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 視覚に障害のある人のために、駅や道路などでの誘導することや、下肢に障害がある人のためにエレベーター、エスカレーターの設定が必要だと思う。
	公共施設・道路（7件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公共の施設はもちろんのこと、歩道などもバリアフリーにして、車椅子でも安全に外出できるようになると嬉しい。
	サービス（買物・飲食店など）（4件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食堂等での個室の利用。
	医療（1件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医者、看護師、臨床心理士を含め、すべての人が障害特性について正しい知識を身につける。
	福祉（3件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福祉サービスの利用の充実。
障害特性に対する理解（35件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域住民の理解・支援が常にできること。 ■ 障害とはどういうものか、どんな理由で障害になったかをきちんと理解して、こちらからのSOSを感じてほしい。 ■ 障害に対して広い認知と、偏見がなくなれば、差別は解消されると思う。 	
障害への配慮（40件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 難しい言葉で説明するのではなく、わかりやすく紙に書く。 ■ 誰にでも助けや声をかけやすい社会。障害者を見守り、受け入れてくれる社会。 ■ 障害特性はそれぞれ違うので、「知ってもらおう」ことからしか始まらない。「知りたい人」と「知ってもらいたい人」の出会いの場の提供が必須である。 	
その他（13件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人の身になって考えること。 	

（※）なお、2件は「社会的障壁はない」「社会的障壁を取り除くのは難しい」とのご意見でした。

○配慮されて良かったこと、助かったこと（自由回答）

・配慮されて良かったこと、助かったことについては、159人の方から175件の意見を頂きました。以下、主な回答内容を掲載します。

図表 10 配慮されて良かったこと、助かったこと（自由回答）

分類（意見数）		主な回答内容
生活の場面ごと	情報（1件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ テレビに字幕または手話通訳がついた。
	行政機関（5件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市役所など公共の場所に手話通訳がいてくれて良かった。
	教育（21件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害が認定された後も、保育園で障害のない子供と同じように受け入れてくれた。 ■ 小・中学校での通常級との交流授業が実施されたこと。さらにそれが、障害に理解のある先生のもとで実施されたこと。
	雇用・就業（14件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 就労時間について、会社が配慮してくれたこと。 ■ 職場でいろいろトラブルがあったが、気心の通じるジョブコーチと出会ってサポートしてくれているので、とても助かっている。
	公共交通（21件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鉄道、バス等で席を譲られることが多くなった。 ■ 杖やショッピングカーを使っていると、車やバスが停まってくれる。また、バスに乗るとき、後ろを押してくれたり、乗り降りを手伝ってくれる。 ■ 電車やバスで混んでいる時に席を譲ってもらったこと。 ■ 公共運賃の障害者割引が利用できたこと。
	公共施設・道路等（6件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公共施設や屋外イベントに手話通訳者が配置されていた。 ■ 横断歩道を渡る時に気遣いをされると嬉しい。
	サービス（買物・飲食店など）（12件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 試験を受けた時に別室を用意していただき、他の障害者と共に受験することができた。 ■ 店員が荷物を車へ運んでくれる。 ■ 買い物時の親切な対応をしてくれる。
	医療（20件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重度障害者医療費助成で医療機関が無料になり、助かっている。 ■ 病院で障害者手帳、重度障害者医療費助成の医療証を出しても、普通に受け入れてもらえたこと。 ■ 病院で順番を早くしてくれたこと。
	福祉（21件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ デイサービスの送迎車があること。 ■ 地域包括支援センターの方がすぐ動いてくれたこと。 ■ 現在通っている事業所では、一回の説明では理解しにくい私のために、細かく何度も説明してくれる。
	災害時・緊急時（2件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災行政用無線で徘徊の場所がすぐわかって、帰宅できたこと。
障害特性に対する理解（43件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 視覚障害だが、外出した時、周囲の人が親切に助けてくれてありがたい。 ■ 聴覚障害のため、大きな声で話してくれる、耳元で話してくれることなどは助かる。 ■ 障害の程度を理解して、さりげなく普通に対応、対処してくれた。 ■ ゆっくりとわかりやすく話しかけてくれること。 	
その他（4件）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障害に関する関係法令を整備してくれたこと。 	

（※）なお、5件は「なし」とのご意見でした。

9. 就学・就労について（障害児および発達・高次脳機能障害のみの設問）

○現在の通学（通園）・通勤状況（複数回答）

・現在の通学（通園）・通勤状況についてみると、全体では、「小学校（特別支援学級）」が17.7%と最も多くなっています。以下、「小学校（通常学級）」（16.7%）、「盲・ろう・養護学校 小学部」（11.5%）、「中学校（特別支援学級）」（11.5%）の順となっています。

○現在の学校等への入学にあたっての困りごと（複数回答）

・現在の通学（通園）・通勤状況で「通園施設」～「その他の学校・施設」のいずれかを回答した方に対して、現在の学校等への入学にあたっての困りごとをたずねたところ、全体では、「学校についての情報が少なかった」（20.2%）が最も多く、以下、「通学の方法について不安があった」（16.0%）の順となっています。

○入学する学校等を決める時に重視したこと（3つまでの複数回答）

・現在の通学（通園）・通勤状況で「通園施設」～「その他の学校・施設」のいずれかを回答した方に対して、入学する学校等を決める時に重視したことをたずねたところ、全体では、「障害や発達に応じた専門的な療育が受けられること」が46.8%と最も多く、以下、「通学しやすいこと」（45.7%）、「地域の学校で同年代の子どもと学べること」（40.4%）の順となっています。

○現在の学校等の生活のなかでの困りごと（複数回答）

・現在の通学（通園）・通勤状況で「通園施設」～「その他の学校・施設」のいずれかを回答した方に対して、現在、学校等の生活のなかでの困りごとをたずねたところ、全体では、「通学の支援が不十分」（25.5%）、「周囲の理解が得にくい」（19.1%）、「家族の負担が大きい」（18.1%）が多くなっています。

図表 11 現在の学校等の生活のなかでの困りごと（複数回答）

	通学の支援が不十分	授業が難しい	設備が使いづらい	介助が不十分	周囲の理解が得にくい
障害児 (n=84)	26.2%	10.7%	10.7%	7.1%	21.4%
発達・高次脳 (n=10)	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全体 (n=94)	25.5%	11.7%	9.6%	6.4%	19.1%

	友達ができにくい	希望する学校・学級に入れない	家族の負担が大きい	その他	特に問題はない
障害児 (n=84)	15.5%	4.8%	17.9%	9.5%	35.7%
発達・高次脳 (n=10)	20.0%	0.0%	20.0%	10.0%	50.0%
全体 (n=94)	16.0%	4.3%	18.1%	9.6%	37.2%

	無回答
障害児 (n=84)	3.6%
発達・高次脳 (n=10)	0.0%
全体 (n=94)	3.2%

（注）回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（その他、特に問題はない、無回答は除いています）。

○今後、希望する進路（単一回答）

- ・今後、希望する進路についてみると、全体では、「進学したい」が61.5%と最も多くなっています。以下、「障害者の施設に通所したい」（20.8%）、「働きたい・働き続けたい」（9.4%）の順となっています。

○希望する進学先（単一回答）

- ・今後、希望する進路で「進学したい」と回答した方に対して、希望する進学先をたずねたところ、全体では、「中学校（通常学級）」が20.3%と最も多くなっています。以下、「大学・短大・専門学校」（16.9%）、「中学校（特別支援学級）」（11.9%）、「盲・ろう・養護学校高等部」（11.9%）の順となっています。

○希望する働き方（単一回答）

- ・今後、希望する進路で「働きたい・働き続けたい」と回答した方に対して、希望する働き方をたずねたところ、全体では、「企業等に正社員として働きたい」が33.3%となっています。

10. 将来の暮らしについて

○将来希望する暮らし方（単一回答）

- ・将来希望する暮らし方についてみると、全体では、「自宅で家族と暮らしたい」が57.2%と最も多くなっています。以下、「一人で自立して暮らしたい」（17.5%）、「施設で暮らしたい（または現在の施設で暮らし続けたい）」（7.5%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、全ての障害で「自宅で家族と暮らしたい」の回答が最も多くなっています。「自宅で家族と暮らしたい」以外では、知的障害で「グループホームなどで暮らしたい」や「施設で暮らしたい（または現在の施設で暮らし続けたい）」の回答割合が他の障害種別に比べて高くなっています。また、精神障害では「一人で自立して暮らしたい」が28.4%と、身体障害や知的障害等に比べると回答割合が高くなっています。

図表 12 将来希望する暮らし方（単一回答）

		自宅で家族と暮らしたい	一人で自立して暮らしたい	グループホームなどで暮らしたい	施設で暮らしたい（または現在の施設で暮らし続けたい）	その他
身体障害	(n=268)	69.4%	13.4%	2.2%	6.7%	0.4%
知的障害	(n=97)	38.1%	12.4%	20.6%	14.4%	2.1%
精神障害	(n=95)	45.3%	28.4%	5.3%	7.4%	7.4%
障害児	(n=86)	53.5%	18.6%	11.6%	4.7%	4.7%
発達・高次脳	(n=18)	44.4%	44.4%	5.6%	0.0%	0.0%
難病	(n=8)	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
全体	(n=572)	57.2%	17.5%	7.3%	7.5%	2.4%

		無回答	合計
身体障害	(n=268)	7.8%	100.0%
知的障害	(n=97)	12.4%	100.0%
精神障害	(n=95)	6.3%	100.0%
障害児	(n=86)	7.0%	100.0%
発達・高次脳	(n=18)	5.6%	100.0%
難病	(n=8)	0.0%	100.0%
全体	(n=572)	8.0%	100.0%

（注）回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（その他、無回答は除いています）。

○自立して生活する場合に必要な条件（3つまで複数回答）

- ・自立して生活する場合に必要な条件についてみると、全体では、「世話してくれる家族や支援者（ホームヘルプなど）がいること」が43.4%と最も多く、以下、「生活費の支援があること」（29.5%）、「身近な相談相手がいること」（29.5%）の順となっています。障害種別にみると、身体障害では「世話してくれる家族や支援者（ホームヘルプなど）がいること」が最も多くなっている一方、知的障害では「身近な相談相手がいること」、精神障害では「生活費の支援があること」が最も多くなっています。

11. 福祉サービスの利用意向について

■利用したい福祉サービス

○訪問系サービス（複数回答）

- ・訪問系サービスについてみると、全体では、「居宅介護」が24.8%と最も多く、以下、「短期入所」（22.6%）、「行動援護」（12.6%）の順となっています。
- ・障害種別に見ると、身体障害では「居宅介護」が最も多くなっている一方で、知的障害や障害児では「短期入所」、精神障害では「行動援護」が最も多くなっています。

○日中活動系サービス（複数回答）

- ・日中活動系サービスについてみると、全体では、「自立訓練」が23.1%と最も多く、以下、「生活介護」（19.6%）、「就労移行支援」（13.1%）の順となっています。
- ・障害種別に見ると、身体障害では「生活介護」と「自立訓練」最も多く、知的障害では「生活介護」、精神障害では「就労移行支援」が最も多くなっています。また、障害児では「放課後等デイサービス」が6割弱占めています。

○居住系サービス（複数回答）

- ・居住系サービスについてみると、全体では、「共同生活援助」が15.6%、施設入所支援が11.0%となっています。

○地域生活支援事業（複数回答）

- ・地域生活支援事業についてみると、全体では、「移動支援」が19.9%と最も多く、以下、「日中一時支援」（18.0%）、「日常生活用具給付」（12.1%）の順となっています。
- ・障害種別に見ると、身体障害では「日常生活用具給付」が最も多い一方で、知的障害では「移動支援」、精神障害では「移動支援」と「地域活動支援センター」が最も多くなっています。また、障害児では「日中一時支援」が最も多くなっています。

○各種助成・その他（複数回答）

- ・各種助成・その他についてみると、全体では、「タクシー運賃の障害者割引」が34.1%と最も多く、以下、「福祉タクシー制度」（24.8%）、「補装具費支給制度」（16.1%）の順となっています。

12. 防災について

○災害時や緊急時に身近に手助けしてくれる人の有無（単一回答）

- ・災害時や緊急時に身近に手助けしてくれる人の有無についてみると、全体では「いる」が82.5%、「いない」が13.1%となっています。
- ・障害種別にみると、精神障害では2割以上、身体障害と知的障害、難病では1割以上が「いない」と回答しています。

○災害時や緊急時に身近に手助けしてくれる方（複数回答）

- ・災害時や緊急時に身近に手助けしてくれる人の有無で「いる」と回答した方に対して、災害時や緊急時に身近に手助けをしてくれる方をたずねたところ、全体では、「同居している家族」が83.5%と最も多く、以下、「別居している家族」（16.1%）、「近所の人・知人」（14.6%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、全ての障害で「同居している家族」が最も多くなっており、家族への依存度が高くなっています。「同居している家族」以外では、知的障害では、「福祉サービス事業所の職員（ホームヘルパーなど）」の回答割合が他の障害種別よりも高くなっています。

○災害時や緊急時の市（地域）の情報の入手方法（複数回答）

- ・災害時や緊急時の市（地域）の情報の入手方法についてみると、全体では、「防災行政用無線」が39.9%と最も多く、以下、「市防災ラジオ」（14.9%）、「ケーブルテレビ（ジェイコム湘南）」（11.5%）の順となっています。一方、19.1%の方が「特にない」と回答しています。
- ・障害種別にみると、身体障害や知的障害等で「防災行政用無線」が最も多くなっています。なお、精神障害では3割以上、障害児や発達・高次能機能障害では2割以上が「特にない」と回答しています。

○災害に対する日頃の備え（複数回答）

- ・災害に対する日頃の備えをみると、全体では、「非常用持ち出し袋を用意している」が37.1%と最も多く、以下、「家族と待ち合わせ場所などの相談をしている」（22.7%）、「家具に転倒防止器具をつけている」（20.6%）の順となっています。一方で、「特に何もしていない」が3割以上みられます。
- ・障害種別にみると、全ての障害で「非常用持ち出し袋を用意している」が多くなっています。一方、多くの障害で「特に何もしていない」が2割以上を占めており、とりわけ、精神障害では、54.7%が「特に何もしていない」と回答しています。

図表 13 災害に対する日頃の備え（複数回答）

		非常用 持ち出し袋を 用意している	家具に 転倒防止器具 をつけている	避難所への 経路の確認を している	家族と待ち合 わせ場所など の相談をして いる	地区の 防災訓練に 参加している
身体障害	(n=268)	41.0%	21.3%	17.2%	21.3%	9.7%
知的障害	(n=97)	28.9%	14.4%	9.3%	20.6%	8.2%
精神障害	(n=95)	22.1%	21.1%	9.5%	12.6%	1.1%
障害児	(n=86)	50.0%	23.3%	19.8%	40.7%	10.5%
発達・高次脳	(n=18)	27.8%	16.7%	0.0%	16.7%	11.1%
難病	(n=8)	62.5%	50.0%	25.0%	37.5%	0.0%
全体	(n=572)	37.1%	20.6%	14.5%	22.7%	8.0%

		その他	特に何もして いない	無回答
身体障害	(n=268)	1.5%	31.0%	10.8%
知的障害	(n=97)	4.1%	38.1%	9.3%
精神障害	(n=95)	0.0%	54.7%	8.4%
障害児	(n=86)	3.5%	26.7%	1.2%
発達・高次脳	(n=18)	0.0%	44.4%	0.0%
難病	(n=8)	0.0%	12.5%	0.0%
全体	(n=572)	1.9%	35.7%	8.2%

（注）回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（その他、無回答は除いています）。

13. 障害児の教育のあり方について

○今後の障害児の学校教育で大切と思うこと（3つまでの複数回答）

- ・今後の障害児の学校教育で大切と思うことについてみると、全体では、「障害児のニーズに応じた専門的な教育を充実させること」が36.2%と最も多く、以下、「障害に対する教員の専門性を向上させること」（33.2%）、「いろいろな教育の場を選択できること」（24.8%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害では「障害の有無にかかわらず、地域の同じ場で学ぶこと」が25.4%と他の障害種別に比べて高くなっています。

図表 14 今後の障害児の学校教育で大切と思うこと（3つまでの複数回答）

	障害の有無にかかわらず、地域の同じ場で学ぶこと	障害児のニーズに応じた専門的な教育を充実させること	いろいろな教育の場を選択できること	障害に対する教員の専門性を向上させること	教育と福祉・医療との連携を図ること
身体障害 (n=268)	25.4%	28.4%	23.1%	26.1%	21.3%
知的障害 (n=97)	16.5%	41.2%	23.7%	34.0%	18.6%
精神障害 (n=95)	13.7%	37.9%	21.1%	29.5%	20.0%
障害児 (n=86)	16.3%	47.7%	24.4%	46.5%	26.7%
発達・高次脳 (n=18)	22.2%	50.0%	72.2%	77.8%	16.7%
難病 (n=8)	25.0%	62.5%	37.5%	62.5%	0.0%
全体 (n=572)	20.5%	36.2%	24.8%	33.2%	21.0%

	幼児期から成人期までの一貫した教育の支援体制をつくること	すべての学校に特別支援学級を設けること	通学送迎支援の体制を充実させること	その他	無回答
身体障害 (n=268)	18.7%	9.3%	13.4%	1.1%	30.6%
知的障害 (n=97)	13.4%	11.3%	5.2%	0.0%	33.0%
精神障害 (n=95)	15.8%	5.3%	8.4%	5.3%	30.5%
障害児 (n=86)	30.2%	14.0%	20.9%	0.0%	16.3%
発達・高次脳 (n=18)	27.8%	5.6%	11.1%	0.0%	5.6%
難病 (n=8)	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
全体 (n=572)	19.6%	9.4%	12.1%	1.4%	27.8%

（注1）回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（その他、無回答は除いています）。

（注2）障害児向け調査票については、ご家族の方に対しての設問です。

14. 現在の暮らしについて

○現在の暮らしの満足度（単一回答）

- ・現在の暮らしの満足度についてみると、全体では、43.5%が「満足」（「すごく満足している」と「やや満足している」の合計）と回答しています。一方で、1割以上が「不満」（「やや不満である」と「不満である」の合計）と回答しています。
- ・障害種別にみると、精神障害では「不満」（「やや不満である」と「不満である」の合計）が3割弱を占めており、他の障害種別に比べて高くなっています。

図表 15 現在の暮らしの満足度（単一回答）

	すごく満足している	やや満足している	普通	やや不満である	不満である
身体障害 (n=268)	19.8%	22.4%	42.9%	2.6%	4.1%
知的障害 (n=97)	27.8%	21.6%	35.1%	4.1%	1.0%
精神障害 (n=95)	12.6%	16.8%	35.8%	20.0%	8.4%
障害児 (n=86)	17.4%	32.6%	37.2%	7.0%	1.2%
発達・高次脳 (n=18)	22.2%	38.9%	27.8%	5.6%	5.6%
難病 (n=8)	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%	0.0%
全体 (n=572)	19.9%	23.6%	38.8%	6.5%	3.8%

	無回答	合計
身体障害 (n=268)	8.2%	100.0%
知的障害 (n=97)	10.3%	100.0%
精神障害 (n=95)	6.3%	100.0%
障害児 (n=86)	4.7%	100.0%
発達・高次脳 (n=18)	0.0%	100.0%
難病 (n=8)	0.0%	100.0%
全体 (n=572)	7.3%	100.0%

（注）回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています（無回答は除いています）

15. 市の福祉施策のあり方について

○今後、福祉施策を充実するために力を入れていくことが必要なこと（複数回答）

- ・今後、福祉施策を充実するために力を入れていくことが必要なことをみると、全体では、「相談しやすい体制の充実」が49.5%と最も多く、以下、「入手しやすい情報の提供」（43.9%）、「保健・医療体制の充実」（36.5%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、知的障害では「人権を守る仕組みの充実」、障害児では「相談しやすい体制の充実」や「保育・療育・教育体制の充実」等の回答割合が他の障害種別よりも高くなっています。

図表 16 今後、福祉施策を充実するために力を入れていくことが必要なこと（複数回答）

	入手しやすい情報の提供	相談しやすい体制の充実	障害福祉に関わる市民活動への支援	保健・医療体制の充実	住まいを支える福祉サービス等の充実
身体障害 (n=268)	41.4%	43.3%	15.3%	35.1%	20.9%
知的障害 (n=97)	26.8%	49.5%	25.8%	32.0%	30.9%
精神障害 (n=95)	45.3%	52.6%	14.7%	34.7%	26.3%
障害児 (n=86)	64.0%	64.0%	27.9%	45.3%	32.6%
発達・高次脳 (n=18)	66.7%	55.6%	22.2%	38.9%	11.1%
難病 (n=8)	50.0%	50.0%	12.5%	62.5%	0.0%
全体 (n=572)	43.9%	49.5%	19.1%	36.5%	24.7%

	日常生活を支える福祉サービス等の充実	就労しやすい環境づくり	障害に関する市民意識の向上（障害特性・福祉に関する理解を深める）	地域活動への参加促進	保育・療育・教育体制の充実
身体障害 (n=268)	37.3%	13.1%	20.9%	8.6%	9.3%
知的障害 (n=97)	26.8%	33.0%	47.4%	4.1%	16.5%
精神障害 (n=95)	25.3%	35.8%	38.9%	9.5%	12.6%
障害児 (n=86)	59.3%	58.1%	58.1%	15.1%	65.1%
発達・高次脳 (n=18)	11.1%	38.9%	55.6%	5.6%	55.6%
難病 (n=8)	12.5%	12.5%	25.0%	0.0%	25.0%
全体 (n=572)	35.7%	27.8%	35.1%	8.7%	21.2%

	快適に暮らせるまちづくり	人権を守る仕組みの充実	外出に必要な体制の充実	その他	無回答
身体障害 (n=268)	32.1%	14.6%	22.0%	1.5%	13.4%
知的障害 (n=97)	27.8%	37.1%	20.6%	0.0%	16.5%
精神障害 (n=95)	30.5%	31.6%	23.2%	2.1%	8.4%
障害児 (n=86)	44.2%	24.4%	31.4%	1.2%	1.2%
発達・高次脳 (n=18)	11.1%	33.3%	11.1%	0.0%	5.6%
難病 (n=8)	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%
全体 (n=572)	32.2%	23.3%	22.9%	1.2%	11.0%

（注）回答割合が上位3項目について網掛けを行っています（その他、無回答は除いています）。

16. [ご家族の方にお伺いします]情報・相談などについて

○福祉サービス等の情報の入手先（複数回答）

- ・福祉サービス等の情報の入手先についてみると、全体では、「市の広報紙・資料」が44.8%と最も多くなっています。以下、「家族・親戚・友人・知人など」（22.6%）、「障害者施設や団体」（16.6%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、全ての障害で「市の広報紙・資料」が最も多くなっています。また、知的障害では「障害者施設や団体」も多くなっています。

○悩みごとや心配ごとにおける家族や親戚以外の相談相手（複数回答）

- ・悩みごとや心配ごとにおける家族や親戚以外の相談相手についてみると、全体では、「友人・知人」が29.5%と最も多く、以下、「病院（医師、看護師、ケースワーカーなど）」（21.7%）、「市役所の担当窓口」（20.6%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害や障害児、発達・高次脳機能障害では「友人・知人」が最も多くなっています。一方、知的障害では「市役所の担当窓口」、精神障害では「病院（医師、看護師、ケースワーカーなど）」が最も多くなっています。

○相談機能を充実させるために最も必要なこと（単一回答）

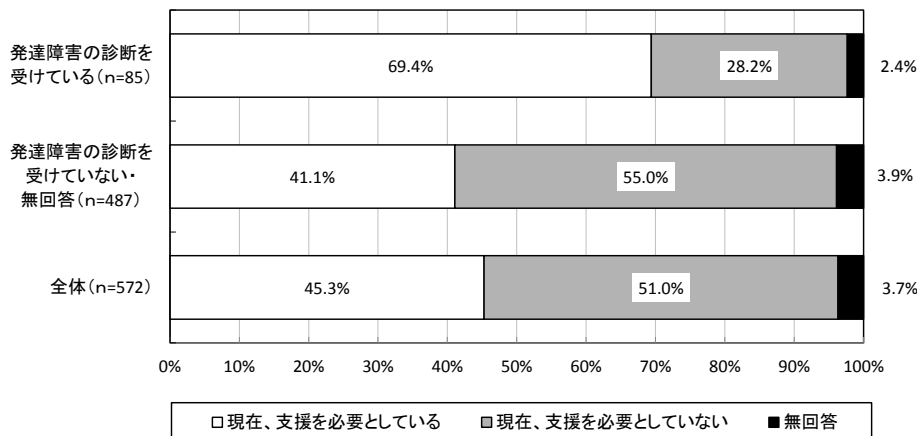
- ・相談機能を充実させるために最も必要なことについてみると、「どこで相談したら良いか、すぐ分かること」が19.9%と最も多くなっています。以下、「総合的な支援体制を充実させること」（11.9%）、「専門的な人材がいること」（9.6%）の順となっています。
- ・障害種別にみると、身体障害や精神障害では「どこで相談したら良いか、すぐ分かること」が最も多くなっています。一方、知的障害では「どこで相談したら良いか、すぐ分かること」と「総合的な支援体制を充実させること」、障害児では「専門的な人材がいること」が最も多くなっています。

Ⅲ. 発達障害の有無別のクロス集計結果

○現在の日常生活での支援の必要性（単一回答）

- ・現在の日常生活での支援の必要性について、発達障害の診断の有無別にみると、発達障害の診断を受けている方²については、69.4%が「現在、支援を必要としている」と回答しています。

図表 17 （発達障害の診断の有無別）現在の日常生活での支援の必要性（単一回答）



○必要とする支援の項目（複数回答）

- ・現在の日常生活での支援の必要性で「現在、支援を必要としている」と回答した方について、必要とする支援の項目を、発達障害の診断の有無別にみると、発達障害の診断を受けている方では、「外出など」や「人とのコミュニケーション」「お金の管理」が5割以上となっています。

○主に支援している方（単一回答）

- ・現在の日常生活での支援の必要性で「現在、支援を必要としている」と回答した方について、主に支援している方を、発達障害の診断の有無別にみると、発達障害の診断を受けている方では、「同居している家族」が57.6%となっています。

○将来の日常生活での支援の必要性（単一回答）

- ・将来の日常生活での支援の必要性について、発達障害の診断の有無別にみると、発達障害の診断を受けている方では82.4%と、発達障害の診断を受けていない・無回答（71.9%）よりも回答割合が高くなっています。

○将来、必要とする支援の項目（複数回答）

- ・将来の日常生活での支援の必要性で「将来、支援を必要とすると思う」と回答した方について、将来、必要とする支援の項目を、発達障害の診断の有無別にみると、発達障害の診断を受けている方では、「困ったときにいつでも相談できること」が71.4%と最も多く、以下、「人とのコミュニケーション」（62.9%）、「お金の管理」（54.3%）となっています。

○昼間の時間の主な過ごし方（単一回答）

- ・昼間の時間の主な過ごし方について、発達障害の診断の有無別にみると、発達障害の診断を受けている方では、「福祉施設に通っている」が20.8%と最も多く、以下、「学校に通っている」（18.9%）、「アルバイト・パートで働いている」（17.0%）の順となっています。

² 「発達障害の診断を受けている方」とは、いずれかの調査票において、発達障害・高次脳機能障害の診断の有無に関する設問に対して、「発達障害の診断を受けている」と回答した方を指しています（以下同様）。

図表 18 (発達障害の診断の有無別) 昼間の時間の主な過ごし方 (単一回答)

	企業等に正社員として働いている	アルバイト・パートで働いている	福祉サービス等を利用して働いている	自宅で仕事している	学校に通っている
発達障害の診断を受けている (n=53)	7.5%	17.0%	15.1%	1.9%	18.9%
発達障害の診断を受けていない・無回答 (n=433)	9.0%	6.5%	8.1%	3.7%	0.5%
全体 (n=486)	8.8%	7.6%	8.8%	3.5%	2.5%

	福祉施設に通っている	家で過ごしている	入所施設、病院で過ごしている	その他	無回答
発達障害の診断を受けている (n=53)	20.8%	15.1%	1.9%	0.0%	1.9%
発達障害の診断を受けていない・無回答 (n=433)	5.3%	51.5%	6.0%	2.5%	6.9%
全体 (n=486)	7.0%	47.5%	5.6%	2.3%	6.4%

	合計
発達障害の診断を受けている (n=53)	100.0%
発達障害の診断を受けていない・無回答 (n=433)	100.0%
全体 (n=486)	100.0%

(注1) 障害児向け調査票は上記の設定を設けていません。

(注2) 回答割合が最も高い項目について網掛けを行っています(その他、無回答は除いています)。

○就労する上で必要な支援の項目 (複数回答)

- ・ 昼間の時間の主な過ごし方で「働いている」と回答した方について、就労する上で必要な支援の項目を、発達障害の診断の有無別にみると、発達障害の診断を受けている方では「職場適応援助者(ジョブコーチ)の配置」や「障害特性に配慮した仕事の分担」がそれぞれ63.6%と最も多くなっています。また、「能力に応じた適切な評価と支援計画」(59.1%)や「就労支援機関からの支援」(50.0%)も多くなっています。

○最も希望している過ごし方 (単一回答)

- ・ 最も希望している過ごし方について、発達障害の診断の有無別にみると、発達障害の診断を受けている方では、「企業等に正社員として働いている」が30.2%と最も多くなっています。また、「福祉サービス等を利用して働いている」が17.0%、「アルバイト・パートで働いている」が7.5%、「自宅で仕事をしている」が3.8%となっており、58.5%が働くことを希望しています。

第5期茅ヶ崎市障害者保健福祉計画策定アンケート調査結果報告書【概要版】

平成29年（2017年）11月発行 第1刷 300部作成

発行 茅ヶ崎市

編集 福祉部障害福祉課

〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

電話 0467-82-1111（代表）

FAX 0467-82-5157

Eメール shoufuku@city.chigasaki.kanagawa.jp

ホームページ <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

携帯サイト <http://mobile.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

携帯サイト
QRコード

